

# JSHCT Letter No.20

The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

日本造血細胞移植学会

September 2005

発刊発行:日本造血細胞移植学会 〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞内科学・血液内科内 TEL&FAX (052)744-2146  
発行者:小寺 良尚 編集責任:日本造血細胞移植学会編集委員会 発行:2005年9月

## 第28回日本造血細胞移植学会総会のおしらせ

会長 坂巻 壽

(東京都立駒込病院 血液内科)

平成18年(2006年)2月24日と25日の2日間、東京国際フォーラムで開催されます第28回日本造血細胞移植学会総会を開催するにあたり、ご挨拶申し上げますとともに総会開催へのご協力をお願い申し上げます。本学会は1978年に創立された日本骨髄移植研究会から発展的に移行して1996年に設立されました。年を追うことに参加者が増加し、第27回総会では2100人を超える参加がございました。本学会総会は参加者が医師のみに限らず、看護師、検査技師を含めたパラメディカル、さらには患者さんおよび患者支援団体の方々まで幅広く参加頂ける、開かれた学会となっております。実際これまでも学会プログラムの中に看護師さんのセッションや公開市民講座が組み込まれており、第28回総会においてもこれらの精神を受け継いで行く所存でございます。実際の学会のプログラム作成はこれからの作業になりますが、各部門からの最新の研究結果の報告に加えて、患者さんの移植後のQOLとも大きく関わる移植後の合併症につきまして、いくつかのシンポジウムを企画致しております。近年、固形がんへのミニ移植や自己免疫疾患に対する自家移植など移植の対象が広がっていることもあり、そのような新たな移植の展開についても、シンポジウムを予定しております。また、新たな試みとして、将来の移植医療を担うべく研修医への教育、鼓舞を目的とした機軸も取り入れて行く予定です。第28回日本造血細胞移植学会総会が、日本の移植医療の進歩に寄与し、新たな研究の端緒となり、医療者同士、あるいは患者と医療者のよりよい関係が確立される場になりますよう、私始め事務局一同全力を尽くす所存でございます。第28回日本造血細胞移植学会に参加とご協力を重ねてお願い申し上げます。

## 【開催概要】

1. 会 期：2006年2月24日(金)～25日(土)
2. 会 場：東京国際フォーラム
3. 演題申し込み：第28回総会HPより登録を受け付けます
4. 演題募集期間：2005年9月中旬～10月14日(金)正午(予定)
5. 主なプログラム
  - ・シンポジウム1(指定)：造血移植後の合併症(1)  
司会：岡本真一郎、峯石 真
  - ・シンポジウム2(指定)：造血移植後の合併症(2)  
司会：秋山 秀樹、丸田 壱郎
  - ・シンポジウム3(指定)：造血移植後の適応拡大  
司会：長藤 宏司、森 慎一郎
  - ・シンポジウム4(指定)：《看護関連のシンポジウムを予定しています》
  - ・会長講演
  - ・市民公開講座： 2月25日午後に会場内にて開催予定
  - ・ワークショップ(公募)
  - ・一般演題(ポスター発表)
  - ・各種セミナー(モーニングセミナー、ランチョンセミナー、イブニングセミナー)

## 【海外からの招聘予定演者】

Cooke KR, Cohen EP, McDonald G, Woywodt A, Naoto Ueno, Shin Mineishi

6. 学会奨励賞：一般演題ポスター発表、ワークショップの演題から学会奨励賞を選んで表彰いたします。
7. 懇親会：学会初日の夜(2月24日)に参加者の方を対象とした懇親会を開催予定です。
8. 宿泊・交通：学会指定の旅行業者(日本旅行)よりご案内いたします。

詳細は第28回総会のホームページをご覧ください

<http://www2.convention.co.jp/jshct28/>

## 日本造血細胞移植学会の法人格取得に関して —— 有限責任中間法人 ——

ニューズレターNo.19(7月発行)では、「本学会の法人格取得に関して」として、本学会が法人格を取得する必要性や、特定非営利活動法人と有限責任中間法人との比較、又、理事会での審議の結果、有限責任中間法人が多数であったことなどを掲載させていただきました。多くの会員の方が関心を持ってお読みいただいていることと存じますが、その後の評議員会での書面表決の結果についてご報告いたします。評議員数130名(定足数87名)のうち、回答をお寄せいただきましたのは、109名(83.8%)ありました。本学会が有限責任中間法人を取得することは良いのではないかと回答をお寄せいただいたのは105名(96.3%)でした。その他は4名(3.7%)でしたが、強い否定の意見はございませんでした。それをもちまして本学会が有限責任中間法人を取得することで進めていくことを決定いたしました。尚、名誉会員、功労会員の14名のうち10名の方から良いとのご回答をいただきました。

ご協力をいただきました評議員会の皆様、名誉会員、功労会員の皆様には、この書面をおかりしましてお礼を申し上げます。また、回答が届かなかった方にも引きつづきご支援を賜りますようお願い申し上げます。

現在、法人格を取得するにあたっての具体的な作業、法人化の経験をお待ちの弁護士さんを担当として定款案等の作成に入っておりますし、又、関連の委員会での討議も始まっておりますが、まだまだ会員の皆様方とご相談しながら進めるべき作業は少なくありません。

今後の進捗状況などは、ニューズレター、ホームページなどでお知らせをしていきますのでご協力をお願いいたします。

(日本造血細胞移植学会事務局)

## 日本造血細胞移植学会寄附講座について

先のニューズレター第19号にてご一報し、その後ホームページ上にも掲載しておりますように、従来の日本造血細胞移植学会全国データ集計事業を中心として骨髓移植推進財団、日本さい帯血バンクネットワークによるデータを一元的に集計・管理・利用することを目的とした、本学会を寄付者とする寄附講座は、学会評議員施設を対象として設立を希望する大学を募集したところ、2大学から応募があり、理事会による選考の結果名古屋大学を設置先とすることで合意を得ました。現在、本寄附講座の教員(助教授1名、助手2名)を、学会員を対象として募集中であります。学会が寄付者となって、学会全体の事業に専心することを使命とした講座を、特定の大学に設置するという事は前例が無いことであり、ある意味実験的とも言える本寄附講座が、当初の学会員の希望を実現してくれるかどうか今後の最大の関心事になろうかとおもいます。今までも極めて充実しており、学問的・社会的に貢献度の高かった本学会全国データ集計事業を更に発展させることに情熱を持ち、全国的・国際的視野を有する教員が全国から選ばれることが期待されます(このニューズレターがお手元に届くころには教員候補者が選定されていると思いますが、今までの経緯、今後の経過につきましてはこれからも逐一ホームページを介してお知らせしていく予定ですのでご注目下さい)。

(日本造血細胞移植学会事務局)

平成17年4月1日

## 日本造血細胞移植学会 個人情報保護方針

「個人情報の保護に関する法律」(以下「個人情報保護法」)に基づき、日本造血細胞移植学会(以下「当学会」)が取得する個人情報について、以下の通り個人情報保護方針を定めます。

当学会の目的を達成するため、必要最低限の個人情報を扱うことがあります。個人情報保護法第2条に定められている「個人情報」に該当する情報が含まれる場合は以下の個人情報保護方針が適用されます。当学会の会員、事務局員は全てこの個人情報保護方針を遵守いたします。

### 1. 個人情報の収集

以下のような情報に個人情報に該当するものが含まれることがあります。

- (ア) 臨床情報の登録、調査研究などで施設から収集した各種書類※1
  - (イ) 学会への入退会の手続きなどによって収集した各種書類
  - (ウ) 当ウェブサイトへアクセスしたことによってブラウザから送信される情報
- 万が一、不要な情報を取得してしまった場合は第三者に漏れる事のないよう適切な処置をいたします。

※1 2006年度以降は可能な限り匿名での情報収集ができるよう準備しております。

### 2. 利用目的

- (ア) 造血細胞移植の研究を推進しその治療成績および安全性の向上を図りよって患者およびドナーの福利に資するという当学会の目的達成のため
- (イ) 情報の正確性を維持するため、調査に協力していただいている施設に問い合わせるため
- (ウ) 会員へのお知らせ、報告書の送付、その他手続きに必要とするため
- (エ) 臨床情報の集計・解析のため
- (オ) その他、当学会の業務において必要とするため

### 3. 保有個人データ※2の所在

- (ア) 下記7に定める、「個人情報の共同利用」に該当する場合を除き、当学会が定めるセキュリティポリシーに基づき、厳重に管理・保管いたします。

※2「保有個人データ」とは個人情報保護法第2条に定められているものを意味します。

### 4. ご本人からの情報請求

保有個人データのうち、当学会がご本人からの請求に応じて開示・訂正・利用の停止等の対応をすることができる情報につきましては以下の通りです。

- (ア) 個人情報取り扱い事業者の名称  
日本造血細胞移植学会
- (イ) 個人情報の利用目的(上記1参照)  
開示等の請求手続きに関しましては別記の「開示などの請求手続きに関して」を参照してください。

個人情報の取り扱いに関するご相談窓口(集計データに関して)

日本造血細胞移植学会 全国データ集計事務局  
〒466-8550  
名古屋市昭和区鶴舞町65  
名古屋大学大学院医学系研究科  
予防医学/医学推計・判断学  
TEL: 052-745-3116 (受付時間 平日 9:00～17:00)  
E-mail: jshct-dc@med.nagoya-u.ac.jp

個人情報の取り扱いに関するご相談窓口(会員情報に関して)

日本造血細胞移植学会事務局  
〒466-8550  
名古屋市昭和区鶴舞町65  
名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞内科学・血液内科内  
TEL/FAX: 052-744-2146 (受付時間 平日 9:00～17:00)  
E-mail: jshct@med.nagoya-u.ac.jp

5. ホームページなどでの情報公開について
  - (ア) 集計・解析結果やそれらを利用した学術論文などにおいて、患者およびドナー個人を特定できるような情報を含むことは一切ございません。
  - (イ) 会員本人または施設に固有の情報を公開する場合は、原則としてご本人または組織の代表者の同意を得てから公開する事とします。
6. メール・メーリングリストの取り扱いについて
  - (ア) 本人の同意の上、メーリングリストに登録し、そのアドレス宛にメールを配信する場合があります。配信に対して本人の同意がない、途中で停止・変更したい場合は、事務局にその旨を伝えるなどすることで、簡単に停止することができるようにします。
  - (イ) 連絡手段の一つとして、本人の同意無しに当学会からメールを送信することがあります。
  - (ウ) メール・メーリングリストから配信される内容には個人情報に不用意に含まれることがないようにします。
7. 個人情報の共同利用(第三者への提供)
 

臨床データの共同利用に関して個人情報を含む場合は施設の医師が患者さんに同意をお求めします。
8. 個人情報の外部委託
 

外部の者に当学会の個人情報の全部又は一部を取り扱う業務委託おこなう場合には、「個人情報保護法」及び当学会の「個人情報保護指針」を遵守することの契約を交わすと共に、委託した個人情報が適切に管理されていることを確認・監督します。

当学会は個人情報を適切に取り扱うために本ポリシーの見直しを含め業務体制の継続的な強化・改善に取り組んでまいります。

以上

日本造血細胞移植学会  
理事長  
小寺 良尚

## 施設紹介

## 京都大学医学部血液・腫瘍内科

京都大学医学部附属病院は京都御所の東約1km、鴨川の東側に位置し、北病棟の6、7階にあります血液・腫瘍内科の病室からは、東に大文字山、北に北山連峰を望むことができます。当科では、関西一円から患者さまの紹介を受け、自家移植とあわせ年間60件程度の移植を行っています。造血器疾患の治療において、同種移植は化学療法を補完する治療手段であるとの考えから、移植前化学療法を重視すると共に、ドナー選択や移植前処置法にも工夫を加えることで、最大限の治療の可能性を追求し



血液スタッフ

ています。当科の誇れる特徴の一つに、他診療科、中央診療部門、ならびに医師以外のメディカルスタッフとの連携の良さが挙げられます。看護部の果たす役割の大きさはいうまでもありませんが、薬剤部、中央検査部、感染制御部などからも十分なサポートを受けていることが、移植成績の向上に大きく寄与しています。一方、重要な課題であるドナーの安全確保に関しては、ドナー外来を設置し、輸血細胞治療部医師とともに適格性の判断に細心の注意を払っています。また、末梢血幹細胞採取においては、体外循環に精通した人工腎臓部の全面的支援をうけています。最後に、私どもと共に研鑽を積んでいただける方を広く募集しております。御連絡をお待ちしております。

## 京都大学小児科造血幹細胞移植チーム

移植責任医師 足立 壮一

京都大学小児科は、1984年に第1例の同種骨髄移植を施行して以来、現在まで120例の同種移植を行いました。中畑教授着任以来、移植症例数は最近、確実に増加しており、過去4年は毎年10数例以上の同種移植を施行しています。移植患者様の紹介は、関連病院のみならず、全国から依頼していただけるようになりました。移植ソースも、骨髄(骨髄バンクから40例)、末梢血、臍帯血(20例)、HLA haplo血縁(10例)など多岐にわたっており、疾患、病期により最善の移植を行えるよう、スタッフ間で頻回にカンファレンスを行い検討しています。近年は、再生不良性貧血や慢性肉芽腫症(CGD)、代謝疾患等の非悪性疾患に対する移植も積極的に行っており、晩期障害の軽減を目標とした骨髄非破壊的な前処置を用いて非常に安全に移植を成功させております。また、月1回の血液内科との移植カンファレンスには、HLA研究所の佐治先生、丸谷先生にもご出席いただき、毎回熱い議論が交わされています。移植患者様についての医師、看護師間でのカンファレンスも定期的に行っており、付き添いのご家族の精神的なケアとして、心理療法士によるカウンセリングもしています。また遠方から転院されて来られる方々のためのファミリーハウスもあり、外泊時にもご家族全員で利用していただいております、好評です。子供達のためには、ニコニコトマトのボランティアの方々が、毎日のように色々な企画を考えて下さっており、子供達はニコニコトマトに出席することを楽しみに辛い無菌室生活を頑張っています。また小中学生に対する院内学級も完備しており、顆粒球減少時にはベッドサイド学習もしてもらっています。スタッフ一同、誠心誠意、治療にあたっておりますので、患者様のご紹介を心よりお待ちしております。



小児科集合写真

### 日本造血細胞移植学会のロゴマークを募集します

本学会は、1978年に第一回骨髄移植懇話会として発足以来、会員の皆様方のご支援、ご協力に支えられながら多方面にわたり着実な歩みを続け、今年度は第28回目の学術集会を迎えようとしております。国内はもとより海外へ向けても本学会を表現するに相応しいロゴマークの作品を公募いたします。会員の皆様奮ってご応募ください。尚、採用作品は、後ほど電子ファイル等のご提供をお願いいたします。

(日本造血細胞移植学会編集委員会)

- ★ 応募資格 : 本学会の会員であること。
- ★ 応募の作品点数 : 1人1点。
- ★ 応募の作品サイズ : A4サイズ(297mm × 210 mm)程度。色、縦横自由。  
注) 1. 手書き: ケント紙に描くこと。 2. グラフィック画像: 写真高画質の光沢紙に印刷のこと。
- ★ 作品について一言 : 100字以内。
- ★ 募集締切り日 : 2005年12月20日(火)。
- ★ 送付先 : 日本造血細胞移植学会事務局: 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 〒466-8550  
名古屋大学大学院医学系研究科分子細胞内科・血液内科内  
Tel & Fax : 052-744-2146 (注) 左下に「ロゴマーク応募作品」と記載のこと。
- ★ 選考方法 : 第28回日本造血細胞移植学会総会会場で展示の上、会員の投票による。
- ★ 発表表 : 第28回日本造血細胞移植学会総会「平成17年度総会」。
- ★ 作品賞 : 現在考慮中。